

東海大学建築都市学部学部長
建築学科教授 / 建築家

岩崎克也

アールトデザインの 3つの建築的な特徴

Å・アールトの建築には下記の3つの特徴があげられる。これらは、お互いに連関しながら一つの建築として集結してカタチとなって現れている。モダニズムの建築の中でも、インターナショナルスタイルとは異なり、地域の特性を大きく取り込んだ希有な建築デザインである。

1 自然との対峙

地形に応じた建築ゾーニング

2 部分と全体の統合

アーティキュレーションによるデザイン

3 グラデーション

ヒエラルキーを持つ空間の構成



1 夏の家 等高線を読み込んだ建物配置

1 「自然との対峙」

地形に応じた建築ゾーニング

敷地の傾斜、等高線を利用した建築の配置ゾーニングを得意とする建築家で自然に逆らうのではなく、自然を取り込み建築の味方につけるデザインを積極的に展開している。※1

2 部分と全体の統合

「アーティキュレーション」によるデザイン

建築を分節しながら、部分と全体性を統合しながらデザインを行う手法である。直線と自由曲線などの形態もこれらアーティキュレーションによって並置され、デザインとしての統合を図っている。※2

3 「グラデーション」

ヒエラルキーを持つ空間の構成

空間の組み立て方においても、1つの空間にフォーカスした階層性を平面の中に置いている。例えばセイナツツアロの村役場の議場の配置のように、目的となる主たる空間へ導くようなアプローチが特徴的である。※3



2 フィンランディアホール 分節した壁面を見る

建築的特徴を開口デザインの 3つの思想に引き継ぐ

この3つの建築デザインの特徴は、開口部の扱いや自然光との対峙の方法にも反映され、特に断面計画にも顕著に展開がなされている。具体的には、自然との対峙は「太陽の位置を計算した開口部」アーティキュレーションは「分節ポイントからの採光」、グラデュエーションは「リフレクターによる光の拡散」へと3つの建築デザインの特徴は、スケールや光の粒子の扱いにまでブレイクダウンされ光と建築との関係性を建築内部空間にも引き継がれている。

1 自然との対峙

→「太陽の位置を計算した開口部」

開口から見ることができる風景だけではなく、建築内に入る光も周到に計算がされており、自然を積極的に取り込むものとなっている。視線のコントロールや風景を切り取る操作など、自然と対峙するための開口部であるとともに計算された「光」により豊かな内部空間を作り出すための開口部なのだ。



3 セイナツツアロの村役場 中央議場にフォーカスした平衡面計画

2 アーティキュレーション

→「分節ポイントからの採光」

分節した屋根が壁の襞は、自然の光を取り込む場所となっている。さらには、リフレクターやクリスタルスカイライトにより光の視覚化によって、自然光の存在をより強いものとしている。光の密度による部分の集積が全体の空間を構築しており、分節した隙間から入る光は、建築の部分と全体の間を振幅し、光の粒子が行き届き、空間に奥行きと調和を与えている。

3 グラデュエーション

→「リフレクターによる光の拡散」

屋根、壁から取り込んだ自然の光は、天井や内壁、反射板により拡散され、そこで生まれる陰影は、均質なものではなくグラデュエーションを創り出し空間の質を豊かなものとしている。リフレクターの反射効果によって生まれる「光のグラデュエーション」は、内部空間を構成する素材とのハーモナイズにより増幅性を高め室内に拡散される。

光と向き合う思想からなる 8つの開口デザインの手法

アールトによる光の取入れるための3つ思想は、次頁の8つの開口部の手法に分類され、デザインとしての展開が試みられている。建物用途やデザインをした時代によって細かな点での光の取り込み手法には変化がみられるが、本質的には、光に関しては繊細かつ積極的に室内空間に導くことを基本的な共通項が見られる。

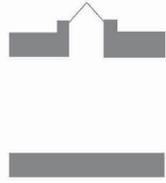
写真撮影：片山華子：1,2,18,19

竹内 稔：2,3,5,6,7,8,9,10,11,12,13,16,17

田丸正和：4,14,15 武田 稔：記全写真の画像調整・管理

上からの光 スカイライト、ハイサイドライト

A-1 スカイライト（直達光） 国民年金会館の図書館、MIT学生寮、ラウタタロ・オフィスビル



▲ sky light

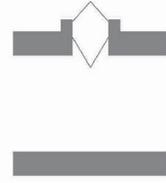


4 国民年金会館図書館内部



5 エンソグートツアイト本社ビル

A-2 クリスタルスカイライト（直達光） アカデミア書店、国民年金会館本館



▲ cristal sky light

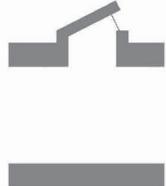


6 アカデミア書店内観



7 同ディテール

B-1 ハイサイドライト（直達光） アールト大学（ヘルシンキ工科大学）図書館、ロバニエミ市立図書館、セイナツァロの村役場



▲ top side light



8 アールト大学外観図書館内観



9 同内観

B-2 ハイサイドライト（間接光） アールト大学（ヘルシンキ工科大学）オーデトリウム、ベネチアビエンナーレフィンランド館、北ユヒトランド美術館



▲ top side light+リフレクター



10 アールト大学ホール外観



11 同内観

横からの光 ウィンドウ

アールトの「建築と光」との関係は、夏場でも太陽高度の低いフィンランドの土地で限りある日照時間を大切に自然と一体的に生活している風土や、北欧ならではの文化から生まれた環境親和する建築の一例であるといえる。

C-1 ウィンドウライト（直達光） アールトスタジオ、ヘルシンキ工科大学建築学科棟



▲ window

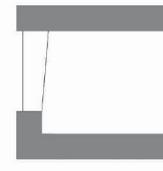


12 アールトスタジオ内観



13 同内観

C-2 ウィンドウライト+ウィンドウ（直達光） ヴォクセンニスカの教会



▲ window+window

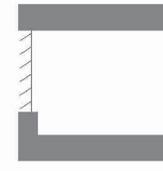


14 ヴォクセンニスカの教会外観



15 同内観

C-3 ウィンドウライト+外部リフレクター（間接光） アールト大学（ヘルシンキ工科大学）講堂、ユバスキュラ教育大学スイミングプール



▲ 外部ルーバー+window

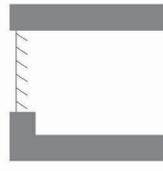


16 アールト大学講堂外観

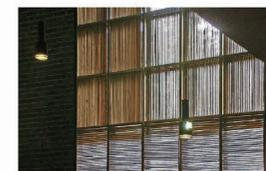


17 同内観

C-4 ウィンドウライト+内部リフレクター（間接光） セイナツァロの村役場、フィンランディアホール



▲ window+内部ルーバー



18 セイナツァロの村役場議場窓まわり



19 フィンランディアホールホワイエ内観